

EU Indicators

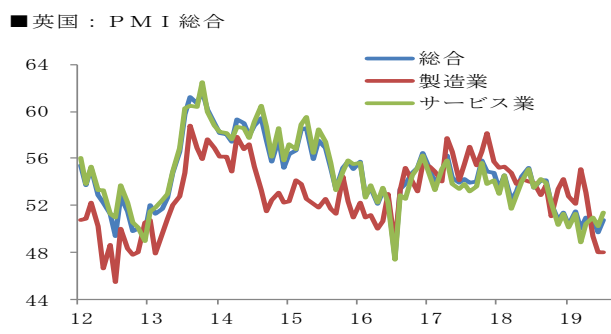
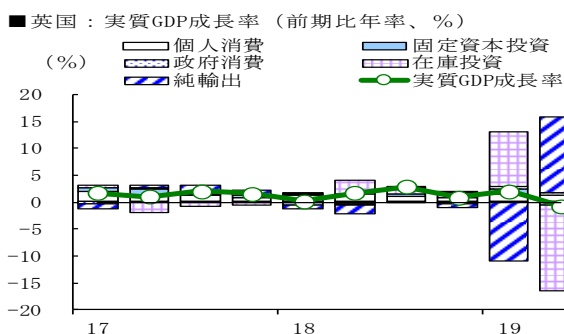
欧州経済指標コメント：4-6月期英国GDP

発表日：2019年8月9日(金)

～ブレグジット狂乱～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

- 英国の4-6月期の実質GDP成長率は前期比▲0.2%、同年率▲0.8%と、2012年10-12月期以来のマイナス成長を記録した。3月末の合意なき離脱に備えた在庫積み増しと政府の準備対応が1-3月期の成長率を押し上げたため、4-6月期はその反動減に見舞われた。準備対応の一巡により政府投資や設備投資が減少に転じたほか、在庫投資が大幅な成長下押しとなった。他方、輸入品在庫を多めに確保する動きが剥落したことで、4-6月期は輸入が大幅に減少し、成長率の押し下げを緩和した。1-3月期は家計も一部商品の買いだめに動いたとみられるが、4-6月期の個人消費はほぼ前期並みの堅調な伸びを維持。同期の名目雇用者報酬の伸びが加速しており、雇用・所得環境の改善が消費の拡大を後押しした。
- ここにきて英国の製造業PMIの落ち込みが目立ち、世界的な景気の先行き不透明感が英国にも遅れて顕在化している。ポンド安による輸出採算の改善やサービス業の底堅さが景気を下支えしている。ジョンソン首相就任で10月末の合意なき離脱への不安が広がっている。政府は合意なき離脱の準備作業を加速、追加予算を計上し、対応の遅れが目立つ中小企業の対策を促している。合意なき離脱に向けた在庫積み増しと準備作業が7-9月期の成長率を再び上押しするとみられるが、3月末で一通りの対応を済ませた企業もあるほか、備蓄可能な在庫については3月末に積み上げた分をそのまま保有し続ける可能性もあり、前回ほどの大幅な成長押し上げにはつながらない公算が大きい。10-12月期以降の景気は、合意なき離脱の有無、今後の準備作業、激変緩和措置の程度によって大きく変わってくる。



■英国GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

	名目 GDP	実質 GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本 投資	在庫	輸出	輸入		
17/4-6月期	1.5	1.0	(0.7)	1.5	2.0	7.8	(▲10.6)	(0.3)	5.1	3.7
17/7-9月期	4.3	2.1	(0.5)	1.8	0.4	1.1	(▲2.9)	(1.6)	7.9	2.2
17/10-12月期	4.1	1.6	(0.8)	1.3	0.1	2.6	(▲3.2)	(0.8)	0.4	▲2.2
18/1-3月期	2.7	0.2	(1.1)	1.9	0.7	▲3.1	(1.6)	(▲0.8)	▲5.1	▲2.3
18/4-6月期	2.7	1.6	(3.2)	2.0	▲1.6	▲2.2	(5.0)	(▲1.6)	▲3.8	1.6
18/7-9月期	4.7	2.8	(2.7)	1.4	▲0.3	3.5	(▲2.0)	(0.1)	3.5	2.9
18/10-12月期	2.7	0.9	(1.5)	1.1	5.3	▲2.5	(▲2.3)	(▲0.6)	6.6	8.6
19/1-3月期	3.8	2.0	(13.0)	2.3	3.2	5.0	(2.6)	(▲11.0)	6.0	50.6
19/4-6月期	1.6	▲0.8	(▲14.8)	2.0	2.7	▲3.8	(▲15.7)	(14.1)	▲12.7	▲42.4

出所：英統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。